

取組の概要

対象畜種

採卵鶏、肉用鶏

協議会構成員

畜産農家、耕種農家、全農おおいた、JAおおいたくにしき西部地域本部、JAおおいた安心院町地域本部、JA杵築市、大分県養鶏協会、(オブザーバー 市町村、各地域水田農業改革推進協議会、県)

飼料用米生産面積

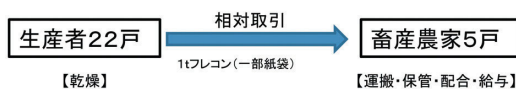
53.0ha

供試品種

クサホナミ	25.7ha
ニシアオバ	3.5ha
タカナリ	2.3ha
その他	21.5ha

取組内容

①飼料用米の流通、保管、調製に係る実証調査



- ◆乾燥は生産者個人の施設や、民間のライスセンターで実施。
- ◆県養鶏協会、各水田協議会、県等が間に入り、畜産農家における利用量の配分等の調整を実施。
- ◆畜産農家が運送会社を手配し、それぞれの保管施設へ運搬。荷姿は1tフレコンが主体。
- ◆保管施設にて1年間分の使用量を保管し、その都度、配合し給与。

②飼料用米の給与による家畜・畜産物への影響調査 (畜産物の成分分析を含む)

試験設計：①採卵鶏における産卵率調査

②肉用鶏における増体率調査

調査項目：①A養鶏場 給与羽数10,000羽 給与割合10%
B養鶏場 給与羽数12,000羽 同上
C養鶏場 給与羽数 6,000羽 同上

D養鶏場	給与羽数	1,800羽	給与割合	5%
②E農家	給与羽数	20羽	給与割合	30%
結果：①A養鶏場	産卵率	91.6%		
B養鶏場	産卵率	94.0%		
C養鶏場	産卵率	93.0%		
D養鶏場	産卵率	93.3%		
②E農家	雌区 飼料用米給与区	18.4g	対照区	19.0g
	雄区 同上	27.7g	同上	29.5g

③飼料用米を利用した畜産物の普及活動

- ◆食卵の市場性調査
【調査対象200人 回答76名(回収率38%)】
- ◆大分県産地鶏「豊のしゃも」の食味会
【調査対象：52名 回答38名(回収率73%)】

取組によってわかったこと

1. 調製・保管・流通について、次のことがわかりました。

- 乾燥調製作業について
 - ・飼料用米生産者22名のうち、16経営体が個人所有の乾燥機、6経営体がライスセンターにて作業実施。
 - ・籾による出荷のため、篩が詰まるという支障もあった。
- 保管方法について
 - ・保管施設は畜産農家が準備し、3農場が既存倉庫、1農場が農協低温倉庫を賃貸借、1農場が専用サイロを新設
 - ・飼料用米の保管施設は、1年間分の容量が必要なため、新設の場合、相当な投資額となる。既存施設を活用する場合でも、通常、畜産農家が米貯蔵庫を整備していないため、低温庫への改造が必要となる。
 - ・国産飼料用米の利用にあたっては、保管庫の確保が大きな課題であると考えられる。
- 流通方法について
 - ・個人の乾燥調製施設から飼料用米保管施設までの輸送は、畜産農家が手配した輸送業者により輸送した。また、一部農協が集荷斡旋に協力した。
 - ・県域流通を円滑に行うには、水稻農家と畜産農家の橋渡しを行う所属団体の参画が不可欠である。

2. 家畜・畜産物への影響について、次のことがわかりました。

- 飼料用米給与区と対照区に、産卵率や増体率に大きな差は認められなかった。
- ただし、生産者間によって品質(タンパク質含量等)に差があるため、実際の給与にあたっては、適宜栄養成分を把握し、配合割合を調整する必要がある。

3. 普及活動について、次のことがわかりました。

◆食卵の市場性調査

- ほぼ全員が飼料用米の取組に賛同
- 飼料用米を給与した卵の購入については、価格が高いとの意見もあったが、回答者の9割が購入したい、とのことだった。

◆大分県産地鶏「豊のしゃも」の食味会

- 胸肉では給与区のほうが「おいしい」と回答したのが52%、もも肉では37.5%だった。
- 給与区は対照区に比べ、もも肉では「旨み」や「舌触り」に、胸肉では「歯ごたえ」にも差がある、との回答。

4. 今後の飼料用米の取組予定などについて

- 平成21年度は県全体で250haを目標に作付推進中。(8月末現在で217ha)
- 生産量の大部分においてJA等の団体が参画しておらず、相対取引となるため、行政が間に入り、取引条件の調整を行い、マッチングを実施。
- 来年度からは、他畜種での利用拡大も見込まれるため、相対取引では限界となることが確実。単価の安い飼料用米であるが、取引にはJA等団体の参画が不可欠であり、今後、関係機関と調整し、円滑な流通体制整備を実施したい。

大分県養鶏協会 事務局 小野 博市

参考データ・写真等



大分県産地鶏「豊のしゃも」の食味会